

A・E・ハウスマン

## 2 ブリードンの丘

(『シュロップシアの若者』21番)

ブリードンの夏は  
教会の鐘が澄み切った空に鳴り渡る  
二つの村に鳴り響く  
こちらでも むこうでも 高い尖塔から  
幸せを告げる鐘の音が鳴り響く 5

日曜の朝 ブリードンの丘で  
彼女とぼくは横になり  
色鮮やかな風景を眺め  
ヒバリが天高く僕らの周りを飛ぶ  
その鳴き声を聞いたものだ 10

遠いむこうの<sup>たにあい</sup>谷間から  
教会の鐘が 彼女においでと誘っていた  
「善良な村人たちよ いらっしやい  
教会にいらして お祈りを」  
でも ぼくの恋人はここを離れようとしなかった 15

ぼくは教会の鐘にむかって 応えたものだ  
揺れるタイムの草むらから  
「ぼくらの結婚式にもよろしく  
鐘の音が聞こえたら  
遅れないで教会に行きますから」 20

でも クリスマスに大雪が  
ブリードンの丘をおおった時に  
ぼくの恋人は朝早く起き上がり  
こっそりと抜け出して  
独りで教会に出かけていった 25

たった一つだけ鐘が鳴らされて

新郎の姿はなかった  
彼女は教会にむかい  
会葬者が<sup>あと</sup>後に続いた  
恋人は ぼくを待ってはくれなかった 30

教会の鐘がブリードンの丘に鳴り渡る  
今日も 教会の尖塔から鳴り響く  
「善良な村人たちよ いらっしゃい」  
ああ うるさい鐘よ 静かにしてくれ  
わかったよ いずれ行くから 35

(山中光義訳)